

ひまわりの会（高山村・赤和地区）

遊休農地のそば、ミニ6次産業化！

赤和ひまわりの会の活動

高山村赤和地区は、大巖山赤和観音とその登り口にあるしだれ桜が有名です。

観音堂の周辺や山際を中心に増加していた耕作放棄地に、ひまわりを作付けしたのが「赤和ひまわりの会」（篠原会長）の始まりです。数十年放置された桑畑やホップ畑の雑木を、会員自らが重機を持ち寄って抜根し、作付け可能な農地へと再生してきました。

平成19年からはそばの栽培を始め、22年は3.5haに面積が広がり、約2.5tのそばを収穫しました。



信州高山新そば収穫祭の開催

11月21日（日）には、第3回「信州高山新そば収穫祭」を村保健福祉総合センターで行いました。村内のそば打ち愛好家「男の隠れ家」の会員が手打ちした新そばが振る舞われ、300食があつという間に完売しました。

また、21年度からは棚田地域遊休農地解消支援事業等も活用し、製めん業者と連携した乾めんの商品化に挑戦しています。商品名は観音堂にちなんで「信州高山大巖そば」と名付けられました。訪れたお客様の反応も上々で、「好評ならさらに作りたい」と篠原会長は手ごたえをつかんでいました。



この他にも、村内クレープ店では「そばのうす焼き」、須坂市内みそ会社は「蕎麦みそ」を商品化し、当日販売が行われました。22年4年目を迎えた同会によるそば栽培の取り組みは、地域全体の取り組みへと広がりを見せています。

【報告：長野農業改良普及センター】